



尾瀬国立公園の保護と利用 ―山岳ガイドの観点から―

安類 智仁（尾瀬ガイドやまもり）

1. はじめに

尾瀬は日本の自然保護運動が始まった場所でも、多くの課題を官民の協力で乗り越えてきた歴史があります。近年の尾瀬では環境学習やツーリズムへの取り組みが盛んでしたが、レジャーの多様化やインバウンド対応の遅れ、また震災や豪雨災害、コロナ禍といった利用面で大ブレイクとなる出来事が重なっています。これらの出来事は、山小屋を中心とした地域経済の低迷を招き、地域が担ってきた歩道維持管理や救助活動等の「保護と利用」を低下させる恐れがあると思われます。ここでは山岳ガイドという立場から、これからの尾瀬の「保護と利用」についてまとめました。

2. 尾瀬を利用している客層

そもそも尾瀬国立公園はどんな客層が利用しているのでしょうか。環境省が不定期ではありますがアンケート調査を実施しており、ここから大まかな傾向を読み取ることができます。

尾瀬国立公園のリピート率を過去のアンケート調査から明らかにしたものが図1です（環境省、2021）。平成15（2003）年以前のアンケート

は訪問回数別の区切りが不統一ですが、どの調査年度でも2回目以上のリピーターの割合は70%前後と高く、訪問回数6回以上も20%台で推移しているため、尾瀬国立公園は繰り返し訪れる利用者の多い、ファンが多く存在している事が分かりました。

3. 認知度・来訪意向

一般社会における尾瀬国立公園の認知度や、行ってみたいと思える場所かをまとめたのが表1です（環境省、2021）。この調査は尾瀬に行ったことが「有る無し」に関わらず、広く一般に対して調査されたもので、いわば日本における尾瀬の知名度を示したものです。

この調査では、尾瀬の認知度は1998年には81.0%と非常に高かったのに対して、2021年には70.8%と10ポイントも認知度が下がっています。来訪意向についても同様に、「ぜひ行きたい」の割合が1998年は37.4%、2021年は23.7%と約14ポイントも下がっており、この25年間で認知度・来訪意向ともに10ポイント以上低下したことが分かり、認知度の低下が来訪先として選ばれづらい点も示唆されています。

4. 尾瀬認定ガイドの活動実績

尾瀬国立公園には地元観光協会やガイド事業者などで構成される、尾瀬ガイド協会が2007年に設立され、尾瀬認定ガイドの認定を行っています。尾瀬認定ガイドは依頼に応じて、尾瀬国立公園内でガイドツアーを引率し、安全管理や環境教育、エコツーリズムを実践していますが、このツアーに参加した人数をまとめたものが図2です（環境省、2021）。

これによれば、2010年のツアー参加者数が約12,000人に対して、2018年には約26,000人と倍以上に増えており、尾瀬の入山者数が減少する中で、唯一増加傾向を示していました。

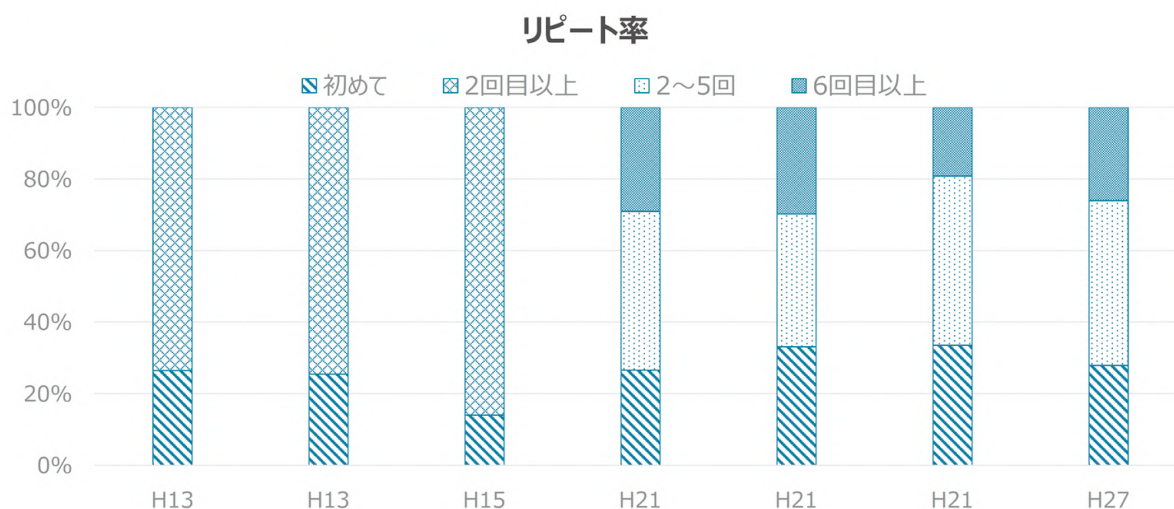
ガイドツアー参加者が増加することは、ガイドの解説を通じた尾瀬の魅力発信や、安全で快適な尾瀬利用、また自然保護運動の原点としての尾瀬を利用者に伝える機会にもつながり、今後の尾瀬の「保護と利用」を図る上で重要な存在だと捉えています。

5. 尾瀬の「保護と利用」のために山岳ガイドに求められること

尾瀬の「保護と利用」のために、山岳ガイドには

図1. リピート率

- ・過去のアンケート調査から、尾瀬の訪問回数をまとめると、2回目以上の訪問者は70%前後で推移している。
- ・訪問回数が6回以上 利用者 20%台で推移している。



※H15以前のアンケート設問では、訪問回数の区切りが不統一であり、「2回目以上」としてまとめた。

出典：環境省（2021）

表1. 認知度・来訪意向の推移

- ・尾瀬の認知度は、1998年は81.0%、2021年には70.8%と下がっている。
- ・来訪経験率は、1998年、2003年、2008年と徐々に上がっていたが、2021年には18.8%とやや下がっている。
- ・来訪意向については、「ぜひ行きたい」の割合が1998年は37.4%、2021年には23.7%と下がっている。

認知度・来訪経験率

尾瀬	1998		2003		2008		2021	
	n	%	n	%	n	%	n	%
合計（無回答を除く）	1,376	100.0%	2,075	100.0%	2,224	100.0%	1,433	100.0%
知らない	375	19.0%	474	22.8%	446	20.1%	418	29.2%
行ったことはないが知っている	1,193	60.4%	1,147	55.3%	1,267	57.0%	746	52.1%
行ったことがある	408	20.6%	454	21.9%	511	23.0%	269	18.8%
認知度	1,601	81.0%	1,601	77.2%	1,778	79.9%	1,015	70.8%
来訪経験率	408	20.6%	454	21.9%	511	23.0%	269	18.8%

来訪意向

尾瀬	1998		2003		2008		2021	
	n	%	n	%	n	%	n	%
合計（無回答を除く）	1,375	100.0%	1,459	100.0%	1,779	100.0%	889	100.0%
ぜひ行きたい	514	37.4%	466	31.9%	468	26.3%	211	23.7%
行きたい	586	42.6%	687	47.1%	807	45.4%	417	46.9%
あまり行きたくない	232	16.9%	263	18.0%	409	23.0%	221	24.9%
行きたくない	43	3.1%	43	2.9%	95	5.3%	40	4.5%
行きたい（計）	1,100	80.0%	1,153	79.0%	1,275	71.7%	628	70.6%
行きたくない（計）	275	20.0%	306	21.0%	504	28.3%	261	29.4%

尾瀬国立公園誕生

出典：JTBF旅行意識調査，環境省（2021）に基づく

何が求められているのか、また、こういった関わりができるのかをまとめてみました。

■ 尾瀬の解説者としての役割

ツアー参加者から求められる役割は、お客様ニーズが多様化している現在では千差万別ですが、そぞろ落として考えれば「尾瀬の環境保全」「安全管理」「解説」だと思われます。

解説する役割は、豊富な知識、内容の分かりやすさ、実体験、熱意、小道具の活用、ホスピタリティ、エンターテインメントといった様々な要素が関係しており、技術的なノウハウだけでなく、ガイドの考え方や生きざまがツアー参加者には見え隠れするところです。

このようにガイドの解説する能力は、尾瀬国立公園の価値をお客様に直接伝えられるだけでなく、尾瀬を好きになってくれるきっかけにも繋がるため、尾瀬ガイド協会を中心に尾瀬に関する知識と解説技術の向上を図る必要があります。

■ 「楽しみ」と「学び」をバランス良く提供する役割

「尾瀬の解説者としての役割」と相反するかもしれませんが、尾瀬認定ガイドを依頼するお客様は尾瀬を楽しむために来ています。解説者としての役割を前面に出しすぎると、ツアーは勉強会になってしまうまい、ガイドは先生という立場になってしまう事があります。

尾瀬について勉強する事が悪いわけではなく、あくまでもツアーにおいては、尾瀬を「楽しむ」事を通じて、尾瀬を「学ぶ」という流れをつくること

が、ガイドに求められる役割だと筆者は考えています。

■ 悪しき変化の兆候を察知する役割

尾瀬では自然環境の把握のために、様々な主体がモニタリング調査を行っています。その調査を継続するために、行政や研究者が多大な時間と労力をかけていると思います。

ガイドの特性のひとつに、同じフィールド（コース）を繰り返し利用するという点がありますが、この点において、ガイドは継続的にその場の環境を観察するのに適した存在だと思います。モニタリングに求められる専門性や精度については、それを必要としない手法を整備すればよく、例えば「定点を設けて写真を撮る」という作業は、新たな予算措置無しに実行できるモニタリングのひとつだと思います。

また、現在の利用状況が尾瀬に対して何らかの悪影響を与えていないか、そういった悪しき変化の兆候をいち早く察知できるのも、お客様の行動を常にしているガイドの特性だと思います。例えば「なぜこの場所の植物が踏まれるのか」は、至仏山や燧ヶ岳等の登山コース上でしばしば起きる問題点ですが、その理由のひとつに「階段の段差が大きくて仕方なく横の植生に踏み込んでいる」といった、お客様の行動が引き起こしているケースがあり、回復不能になる前に対策を講じることができません。植物の踏み荒らしだけでなく、野生動物による食害や、気候変動に伴う変化に対しても、「おかしい」と気づけるのがガイドだと思います。

■ 尾瀬ファンをつくる・増やす役割

ガイドが尾瀬国立公園に果たすべき最も重要な役割が、「尾瀬ファンをつくる・増やす」だと筆者は考えています。図3は尾瀬ファンをつくり・増やす事でどんな影響をもたらすかをイラスト化したものですが（環境省、2021）、単なる観光PRや誘客活動だけでなく、尾瀬を楽しみ・積極的に学び、ひいては尾瀬を守る活動に参加してくれる「尾瀬ファンをつくり・増やす」必要があると思います。

6. 最後に

ガイドは尾瀬利用者と最も長い時間を尾瀬で過ごし、解説やコミュニケーションを通じて、尾瀬の理解を促し、尾瀬ファンになつてもらえるよう働きかける関係者の最前線に立っています。尾瀬国立公園の「保護と利用」の促進に向けて、ガイドも多くの方々と連携して役割を果たしたいと思っています。

引用文献

1) 環境省関東地方環境事務所（2021）尾瀬国立公園利用アクションプラン検討に向けた勉強会資料・環境省関東地方環境事務所「さいたま」

本文の詳しい内容は、低温科学第80巻537、547ページに掲載しています。

図2. 尾瀬認定ガイド

- ・尾瀬認定ガイド利用者数は、近年は頭打ち傾向。
- ・尾瀬認定ガイドの約6割が60代以上。

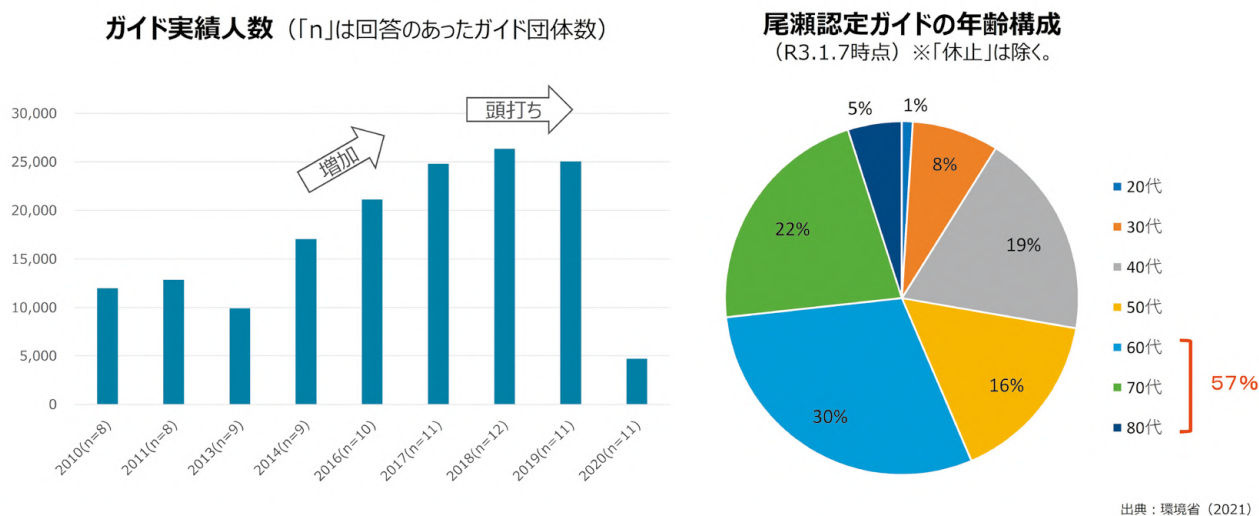


図3. 尾瀬ファンをつくる・増やす

